

ドラフト：必ず英文を参照してください。

PENTETATE CALCIUM TRISODIUM

ペンテト酸カルシウム三ナトリウム（静脈内投与、吸入投与）

服薬指導情報（2011年3月17日現在の情報）

商品名/剤形

- 商品名：なし

分類

薬効分類：

- 重金属キレート剤

この薬の用途

- ペンテト酸カルシウム三ナトリウムは、プルトニウム、アメリシウム、キュリウムのような有害物質を体内から取り除くために用いられます。
- この薬は医師の処方によってのみ使用できます。

この薬を使用する前に

- 薬の使用を決定する際には、薬を服用することによる有益性と危険性を比較検討しなければなりません。これはあなたと医師とが行うことです。この薬では、以下のことを考慮しなければなりません。

アレルギーー

- この薬やその他の薬に対して異常反応やアレルギー反応をこれまでに起こしたことがある場合には、医師に伝えてください。また、食物、染料、保存料、動物などその他のアレルギーがある場合には、医療従事者に伝えてください。市販薬については、添付文書やパッケージ封入物を注意深く読んでください。

小児ー

- ペンテト酸カルシウム三ナトリウムを子供に使用した場合と他の年齢群に使用した場合とを比較した具体的な情報はありますが、この薬を静脈内投与する場合は、成人と子供とで異なった副作用や問題は起こらないと予想されます。

高齢者ー

- 多くの薬は高齢者において特別な研究は行われていません。したがって、若年成人の場合と全く同じように作用するかどうか、高齢者において異なった副作用や問題が起こるかどうかは分からないかもしれません。ペンテト酸カルシウム三ナトリウムを高齢者に使用した場合と他の年齢群に使用した場合を比較した具体的な情報はありません。

妊婦ー

	胎児危険度分類	説明
全期間	C	動物実験では有害作用が示されていますが、妊婦における適切な研究は行われていません。 または 動物実験が行われておらず、妊婦における適切な研究も行われていません。

授乳婦ー

- 授乳期間中にこの薬を使用した場合の乳児に対する危険性を判断できるような女性における適切な研究は行われていません。授乳期間中にこの薬を服用する前に、予測される危険性と有益性を比較検討しなければなりません。

薬物相互作用ー

- 絶対に一緒に使用してはいけない薬もありますが、異なった二つの薬で相互作用が起こる可能性があっても一緒に使用する場合があります。そのような場合には、医師が投与量を変更するかもしれませんし、他の注意が必要となるかもしれません。他の処方薬や市販薬（一般用医薬品、OTC 医薬品）を服用している場合には、医療従事者に伝えてください。

食物、タバコ、アルコールとの相互作用ー

- 相互作用が起こる可能性がありますので、食事または特定の種類の食品の摂取と同時または前後に使用してはいけない薬があります。アルコールやタバコと一緒に使用すると、相互作用が起こる可能性がある薬もあります。食物、アルコール、タバコと一緒に薬を使用してよいか医療従事者と話し合ってください。

その他の疾患ー

- その他の疾患があると、この薬の使用に影響がある可能性があります。他の疾患、特に以下の疾患がある場合には、医師に必ず伝えてください。
 - 喘息ー ペンテト酸カルシウム三ナトリウムを吸入投与すると悪化する可能性があります。
 - ヘモクロマトーシス（鉄欠乏症）ー 重大な副作用が発現する危険性が増加する可能性があります。
 - 腎疾患ー 有害物質を取り除く速度が低下する可能性があります。有害物質の除去を増加させるために、透析が必要となるかもしれません。

この薬の適正使用

- 有害物質が膀胱に蓄積する可能性があります。したがって、尿量を増加させ、膀胱にこれらの有害物質がとどまる時間を短縮するため、医師はペンテト酸カルシウム三ナトリウムで治療している間は、有害物質の排泄を促進するために水分を多く取り、頻回に排尿するように指導するかもしれません。

投与量ー

- この薬の投与量は患者ごとに異なります。医師の指示またはラベルの指導にしたがってください。以下は、この薬の平均的な投与量のみに関する情報です。あなたの投与量が違う場合には、医師の指示がない限り変更しないでください。

- 服用する薬の量は薬の濃度によって決まります。また、1日に服用する回数、服用する間隔、服用する期間は、薬を使用する疾患によって決まります。
 - 吸入剤の場合
 - 有害物質を吸入した患者において、有害物質の除去を促進するため
 - 成人－ 1 g を 1 日 1 回
 - 小児－ 使用と投与量は医師によって決定されます
 - 非経口剤の場合
 - 吸入以外の経路によって有害物質に曝露した患者において、有害物質の除去を促進するため
 - 成人－ 1 g を 1 日 1 回
 - 小児－ 14 mg/kg を 1 日 1 回
- 服用を忘れた場合－
- 医師または薬剤師に連絡し、指示にしたがってください。

この薬を使用しているときの注意

- 他の人や環境の放射能汚染を防ぐために、
 - 尿瓶は使わず、通常のトイレを使用してください。
 - トイレを使用した後は、トイレの水を複数回流してください。
 - 飛び散った尿はトイレトペーパーでよく拭き取り、トイレに流してください。
 - 排尿または排便後は、手を石けんで念入りに洗ってください。
 - 尿、便、血液で汚れた衣服や下着はすぐに洗濯してください。他の衣服と分けて洗ってください。
- 咳をして出てきた固形物は飲み込まないでください。固形物は洗面台やトイレに吐き出してください。トイレに吐き出した場合は水を複数回流し、手を石けんで念入りに洗うことで、洗面台を洗い流してください。
- 尿、便、子供が吐き出したものを取り扱う場合には、介護者や子供へのさらなる曝露を避けるため、より一層注意してください。
- 授乳中の場合には、どのくらいの期間粉ミルクを与えなければいけないのか、有害物質を含む母乳をどのように処理するのか医師と話し合ってください。

この薬の副作用

- 薬は、必要とされる効果とともに、望ましくない影響を起こすことがあります。このような副作用は必ず起こるとは限りませんが、起こった場合には、治療が必要となる可能性もあります。
- また、このような薬は体に作用することから、薬を使用してから数ヶ月後や数年後に望ましくない影響を起こす危険性もあります。
- 以下の副作用が起こった場合には、すぐに医師に相談してください
 - 頻度不明
 - 胸痛；咳；嚥下困難；めまい；心拍数増加；蕁麻疹；かゆみ；まぶた、目の周囲、顔、唇、舌のむくみや腫れ；息切れ；発疹；胸の苦しさ；異常な疲れ

や脱力感；喘鳴

- 通常は治療を必要としない副作用が起こる可能性があります。これらの副作用は、体が薬物に順応するにつれて、治療の間に消えていくことがあります。また、医療従事者がこれらの副作用を予防したり軽減させる方法を教えることができるかもしれません。以下の副作用が続いたり、ひどい場合や、これらについての疑問がある場合には、医療従事者に相談してください。
- 頻度不明
 - （注射部位）出血、水疱、灼熱感、冷感、皮膚の変色、圧迫感、蕁麻疹、感染症、炎症、かゆみ、しこり、しびれ、痛み、発疹、発赤、瘢痕、ヒリヒリ感、刺痛、腫れ、圧痛、ピリピリ感、潰瘍、温感；（皮膚）水疱、痂皮、刺激感、かゆみ、発赤、ひび割れ、乾燥、鱗状；下痢；頭痛；ふらつき；金属味；吐き気；腫れ
- 記載されていない副作用が起こる可能性もあります。その他の作用に気づいた場合は、医療従事者に相談してください。
- 副作用についての医療的アドバイスは医師に連絡してください。